

世界農業遺産 (GIAHS) ジアス

Globally Important Agricultural Heritage Systems (世界重要農業遺産システム) の頭文字をとって「GIAHS (ジアス)」。社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた、独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域 (農林水産業システム)。FAO (国際連合食糧農業機関) により認定されます。(認定基準はP5 参照)

世界遺産との違い

世界遺産は、国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) が顕著な普遍的価値を持つ建造物や遺跡、景観、自然などの文化遺産・自然遺産・複合遺産に分類して認定します。世界遺産が「過去の遺産」の保護を目的とするのに対して、世界農業遺産は農林水産業システムという「生きている遺産」の保全と持続的利用を目的としている、それぞれ別の制度です。

世界農業遺産認定地域

令和5年8月現在、世界農業遺産は世界で24か国78地域、国内では15地域が認定されています。国別では、日本は19地域の中国に次いで2番目の数です。



武蔵野の落ち葉堆肥農法



いのち 360年の生命を紡いで

かなわず、平成29年に現在の武蔵野地域で申請し、日本農業遺産に認定されました。その後も平成30年にGIAHS認定を目指して申請し、令和2年の4度目の申請で9年越しに認定を果しました。

今回は「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の特集。世界に認められた本農法とはどんなものなのか、なぜ360年以上も続いているのか、これからどうなっていくのか。それぞれの疑問をひも解きながら本農法の魅力に迫ります。

日本から世界へ

三芳町が初めてGIAHSに申請したのは平成26年。当時は単独での申請でしたが認定は

二

三芳町を含む武蔵野地域(他に川越・所沢・ふじみ野市)

に伝わる「武蔵野の落ち葉堆肥農法」。江戸時代から360年の生命を紡いで連綿と続いてきた伝統農法が、令和5年7月5日(水)、FAO(国際連合食糧農業機関)からGIAHS(世界農業遺産)に認定されました。

武蔵野の落ち葉堆肥農法

世界農業遺産

GIAHS
-ジアス-

に認定!